

社会的取り組み 36

産総研は憲章に「社会の中で、社会のために」と掲げ、持続発展可能な社会の実現に向けた研究開発をはじめ、社会的な取り組みを行っています。

企業と博士人材との交流会

産総研イノベーションスクールは、産業界を含む幅広い分野で活躍できる博士人材の育成を目指しています。2012年度より、筑波大学グローバルリーダーキャリア開発ネットワーク（GLCNet）との共同開催で、企業の人事担当者とポストドクおよび博士課程在籍者が意見交換し、互いに理解しあうための交流会を開催しています。

2013年度は、企業8社にご参加いただいて(参加企業は下記URLを参照)、12月24日に筑波大学 大学会館特別会議室にて開催しました。博士人材は、筑波大学と産総研だ

けでなく、東京大学、国際基督教大学、マギル大学、技術研究組合などから合計36名が参加しました。各企業の個別ブースを設け、博士人材と企業担当者が対話しました。

終了後のアンケートでは、参加したポストドク・学生から「さまざまな分野の企業から有益なお話をじっくり聞けました」との感想がありました。企業からは「仕事内容などを理解していただけるように、一人一人とゆっくり話ができました」、「自分の研究が企業でどのように活かせるのか、想像つかない方が多くいましたので、今回

の交流会を通じてぜひご自身で考えていただきたいと思います」などの回答がありました。

企業と博士人材との交流会 URL : <https://unit.aist.go.jp/inn-s/ci/event2013/index.html>



企業の人事担当者と博士人材との活発な意見交換

日印ビジネスフォーラム・科学技術セミナー

報告

2014年1月下旬の安倍総理のインド公式訪問に合わせて、1月26日、日印ビジネスフォーラム・科学技術セミナーが日本貿易振興機構（JETRO）の主催でデリーにて開催されました。産総研からは中鉢理事長および湯元理事が出席しました。基調講演において、理事長は産総研のグリーン・イノベーションとライフ・イノベーションへの貢献を目指す研究活動や、インド科学技術省バイオテクノロジー庁（DBT）と実施している創薬推進に関する共同研究、およびその推進のためにつくばセンター内に設置した共同研究ラボについて紹介しました。このセミナーには、安倍総理に同行した経済界や研究機関などのトップも参加しました。

クロージング・セッションでは安倍総理よりごあいさつがあり、産総研とDBTの共同研究について「インド固有の生物資源と日本の先端技術の融合により、新たな医薬品も実現できるでしょう」との発言がありました。また、セミナー終了後、中鉢理事長は安倍総理一行とともに迎賓館に招かれ、シン・インド首相とも懇談しました。



壇上の中鉢理事長（右端）

その後発表された日印両首脳による共同声明の中で、「両首脳は、産業技術総合研究所とインド・バイオテクノロジー庁のバイオテクノロジーに関する共同研究施設を設立するとの新たなイニシアティブを歓迎した」との言及があり、両国政府間で産総研の国際連携の実績が広く周知されました。

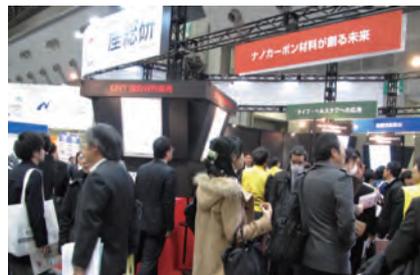


安倍総理のごあいさつ

第13回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議（nano tech 2014）は、2014年1月29日～31日に東京ビッグサイトで開催され、638社／団体（うち海外22カ国地域から142社／団体）が出展し、3日間でのべ45,844人の来場者を数え盛況のうちに終了しました。

産総研ブースでは「新素材エンジニアリング～ナノ材料を社会へ～」をメインテーマに特別展示と一般展示コーナーを設け、計26件の展示を行いました。また、会議棟では「ナノテクノロジーから見た3D造形ものづくり」と題したシンポジウムを開催しました。

特別展示では、「ナノカーボン材料が創る未来」と題して、カーボンナノチューブやグラフェンといった材料について、産総研の独自技術をもとに近未来社会においてそれらが担う重要な役割について紹介しました。また、一



特別展示の様子

般展示では新素材エンジニアリングを支える基盤技術・応用展開について成果紹介を行いました。開催期間中は経済産業省、文部科学省関係者のご視察もあり、好評のうちに展示会を終了しました。



シンポジウムの様子

タイ国立科学技術開発庁長官の来訪

2014年1月30日、タイ国立科学技術開発庁（NSTDA）のタウイサック長官、チャダマス副長官らが、2014年4月福島県郡山市に開所予定の産総研福島再生可能エネルギー研究所（FREA）を訪問されました。NSTDAと産総研とは包括研究協力覚書を締結しており、特にバイオディーゼルのナノテクノロジー関係の研究協力が進んでいます。

大和田野所長からFREAの概要と将来ビジョンについて説明が行われた後、実施を予定している太陽光発電、地中熱利用、水素によるエネルギー貯蔵、地熱などの研究が各研究グループ

より紹介されました。続いて今後の連携に関する意見交換が行われ、再生可能エネルギー分野を中心とした連携の促進や若手研究者の相互交流の重要性が確認されました。

この後、長官一行はFREA内のラ



福島再生可能エネルギー研究所のラボ見学

ボヤクリーンルームなどの研究施設を見学されました。

タウイサック長官は、4月のFREA開所式にも参加されます。今後のタイ研究機関とのより一層の連携が期待されます。



集合写真

左から5番目がタウイサック長官、4番目が大和田野所長

アイルランド上院議長の旅

2014年2月13日、アイルランド上院パーク議長ら7名の方々が産総研臨海副都心センターを訪問されました。

一村副理事長によるあいさつや産総研の概要紹介の後、湯元理事よりライフサイエンス分野の研究紹介が行われました。日本の最先端の産業技術に触れたいということが今回の来訪目的であり、パーク議長一行は創薬分子プロ

ファイリング研究センターのバイオ作業ロボット「まほろ」システムを視察されました。夏目研究センター長による説明とデモが行われ、一行は熱心にご覧になられていました。

最後の意見交換の際には、遺伝子組み換えにおける諸問題への対処方法や再生可能エネルギー研究における優先順位づけなどが話題になり、活発な議

論が交わされました。



まほろシステム視察の様子

産総研キャラバン 2014 こおりやまの開催

報告

2014年2月8日および9日の2日間、福島県の「郡山市ふれあい科学館スペースパーク」を会場に、「産総研キャラバン 2014 こおりやま」を開催しました。

このイベントは、一般の方々（とくに子供たち）が、もっと科学技術に関心をもてるよう、楽しくわかりやすいテーマを集めて、数年前から継続して企画・主催しているものです。開催に際しては、毎年開催地の科学館や博物

館に多大なご協力をいただいています。

ヒューマノイドロボットと連結型モビリティの実演ステージ、科学工作コーナー、体験コーナー、地質標本展示など、子供向けのテーマのほか、この春開所する「福島再生可能エネルギー研究所」の紹介コーナーも設けました。

あいにく今回は10年に一度という大雪に見舞われ、会場は終日少し寂しげな状況になっていましたが、雪の中

ご来場いただいた方々には、科学技術との対話に、楽しく充実した時間を過ごしていただけたことと考えています。



会場の様子

駐日南アフリカ共和国大使の来訪

報告

2014年2月20日、在日南アフリカ共和国ペコ大使、ムザブ公使、ディンギレ参事官（農業・林業・漁業担当）ら5名の方が産総研北海道センターを訪問されました。南アフリカでは、食品や医薬品の付加価値を上げることが求められていることから、産総研の最先端技術を調査することが今回の来訪目的です。

松岡所長らによる北海道センターおよび生物プロセス研究部門の概要紹介が行われた後、植物工場やバイオ浄化技術施設などの研究施設の見学をして

いただきました。

最後にペコ大使より、特定の研究領域に焦点をおいてより効果的に研究連

携を促進していきたい旨のご発言をいただきました。



集合写真
手前中央がペコ大使



施設見学の様子

第54回産業技術連携推進会議（産技連）総会の開催

報告

2014年2月26日に東京都千代田区の砂防会館において、第54回産技連総会が開催されました。産技連は、公設試験研究機関（公設試）相互および産総研との協力体制を強化し、試験研究の効果的な推進や企業などへの技術開発支援を通じて、わが国の産業競争力の強化およびイノベーションの創出に貢献することを目的としています。総会は、経済産業省、都道府県、公設試などから約200名のご参加を得て開催されました。

まず、産技連会長の選出が行われ、中鉢理事長が産技連会長に就任し、イ

ノベーションにおける地域の成長の重要性、地域と中央および地域同士の連携の必要性についてあいさつをしました。次いで、福島再生可能エネルギー研究所紹介の特別講演、公設試と産総研の連携活動として、東北地域再生可能エネルギー事業化推進ワーキンググループの活動と、中国地域における中小企業支援のためのランダムピックアップロボットシステムの共同開発についての発表があり、経済産業省、文部科学省から地域産業振興に関する施策が紹介されました。その後、瀬戸理事より、地域企業から求められる高度で新

しい技術普及への産総研の産技連支援策として新事業の提案があり、産総研と公設試が地域ニーズを把握することの重要性について総括しました。最後に中鉢会長が、産総研を活用して連携を深め、各々の使命を果たしていただきたいとの所感を述べました。



中鉢理事長の産技連会長就任あいさつ

産総研・上海交通大学ジョイントシンポジウム

2014年2月18日、産総研・上海交通大学 ジョイントシンポジウムが、LS-BT 合同研究発表会（産総研ライフサイエンス分野と産技連ライフサイエンス部会・バイオテクノロジー分科会との合同発表会）のメインイベントとして産総研つくばセンターにて開催されました。

上海交通大学は、理工系中心の総合大学で、応用技術と産業化が強みです。産総研とは、2008年から糖鎖医学の分野で連携が始まり、2011年には上海交通大学内にジョイントラボを設立、さらに、マイクロ電子機械システム（MEMS）分野でも連携があり、2012年6月に包括研究協力覚書を締結しています。

一方、LS-BT 合同研究発表会は、今年で13回目の開催となりました。例年、ライフサイエンス関連のトピッ

クスを主題とした講演会を実施してきましたが、今回、はじめて海外からの多数のお客様を迎えてのシンポジウムとなりました。その内容も、ライフサイエンス分野にとどまらず、エネルギー、環境、材料、ロボット、MEMSなど、広い分野に拡大しました。

シンポジウムには、上海交通大学から黄震副学長をはじめ26名、産総研

など国内の参加者をあわせると、400名を超す皆様にご参加いただきました。冒頭の一村副理事長と黄副学長のあいさつに続き、活発な議論が行われました。

ジョイントシンポジウムは来年度以降も継続していくことになりました。両者の連携のさらなる発展が期待されます。



シンポジウム集合写真
最前列右から5番目が黄震上海交通大学副学長。その左が一村副理事長。



会場の様子

平成25年度「産総研イノベーションスクール」7期生修了式

社会のさまざまな分野で活躍できる博士人材の育成を目指した「産総研イノベーションスクール」の7期生の修了式を、2014年3月3日につくばセンター共用講堂にて行いました。来賓として、経済産業省大学連携推進課より佐藤文一課長、日本電産株式会社中央モーター基礎技術研究所より福永泰所長をお迎えし、中鉢理事長、一村スクール長、瀬戸副スクール長ほか出席のもと、ポスドクコース20名、博士課程大学院生コース8名、講義専門コース1名が1年間のカリキュラムを修了しました。

中鉢理事長からは、「今は続かない」、「思ったようにはならない」、「楽になることはない」、しかし、「無駄な経験は何一つない」という自身の経験からの4原則の話があり、一村

スクール長からは、「湯之盤銘曰 苟日新 日日新 又日新（今の気持ちを毎日心に刻んでこれからの日々を過ごしてほしい）」、と幅広い分野へ羽ばたいていく修了生へのエールがありました。また、佐藤課長からは、「イノベーションを起こす人材とはこういう人材だということを社会に向けて示してほしい」、福永所長からは、「何

事も一つ（1社、1機関、1製品など）だけではイノベーションは起こせないで、今日を起点として“共創”を一緒にやっていきましょう」とのメッセージをいただきました。

閉式後、記念撮影を行い、続いて、中鉢理事長、一村スクール長、来賓の方々、スクール生の指導担当者も交えて交流会が和やかに行われました。



修了式後の集合写真

第10回日本学術振興会賞および第10回日本学士院学術奨励賞を受賞

報告

2014年2月10日に日本学士院において、第10回日本学術振興会賞および第10回日本学士院学術奨励賞の表彰式が行われ、情報技術研究部門の後藤真孝 首席研究員が両賞を受賞しました。

日本学術振興会賞は、将来の学術研究のリーダーとして活躍することが期待される、創造性に富み優れた研究能力をもつ若手研究者を支援することを目的に、独立行政法人日本学術振興会が2004年度に創設したものです。

また、日本学士院学術奨励賞は、若手研究者を顕彰して今後の研究を奨励することを目的として、日本学士院が2004年に創設したものです。受賞者は、日本学術振興会賞受賞者の中から選ばれます。

【受賞テーマ】

計算機による音楽・音声の自動理解とそのインタフェース応用に関する先駆的研究

【研究業績の概要】

後藤首席研究員は、複数の音源で演奏されている音楽信号の中から、その構成要素を推定するという問題に取り組み、メロディ、ビート、サビなどの音楽の主要な要素の推定に世界に先駆けて成功し、「音楽の自動理解」という新領域を開拓しました。そして、音源の数を仮定しない独創的な信号処理と数理的枠組みを提唱し、多くの後続研究を生む貢献をしました。

また、「音楽理解研究が音楽の聴き方をどのように豊かにできるか」という独自の研究課題を設定し、音楽情報

の検索や音楽鑑賞の支援のための多様なインタフェースの構築に成功しました。例えば、楽曲中の興味のある箇所を簡単に見つけて聴くことができるサビ出しインタフェースを実現しました。さらに、学術利用可能な音楽データベースを構築し、音楽情報処理の分野全体が発展する基盤を築きました。



日本学士院学術奨励賞の賞状および賞牌を手にする後藤首席研究員

産総研における包括的な連携・協力協定の紹介

報告

産総研は、第三期中期計画の柱の一つに「オープンイノベーションハブ機能の強化」を掲げ、「産学官が一体となって研究開発や実用化、標準化など

を推進するための『場』の提供」および「わが国の産業技術の向上に資することができる人材の輩出」を推進し、産業界や大学、公的研究機関、自治体

など外部機関との連携の強化を図っています。2013年度は、以下に紹介する連携・協力に関する協定を新たに締結しました。

2013年度に締結した包括的な連携・協力協定

協定締結日	相手機関名	協定の概要
2014年1月23日	慶應義塾大学医学部 慶應義塾大学病院	慶應義塾大学医学部内に設置される産総研・慶應連携ラボの活用などにより、創業推進のための疾患検出・診断技術の研究開発や人材育成を行い、医療・創薬・健康分野における医工連携のイノベーション拠点を構築し、新たな診断・治療技術の創出を目指す。
2月10日	埼玉県 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	埼玉県の中堅・中小・ベンチャー企業に対し、共同研究の実施、技術課題への助言、技術の事業化戦略に関する助言、実用化開発や製品開発への助成、企業立地に関する支援などを三者が連携して実施することで、先端産業の育成を図る。
2月20日	国立大学法人 東北大学	再生可能エネルギーの大量導入を支える研究開発や人材育成を共同で推進することにより、被災地における再生可能エネルギー産業の振興を支援し、東日本大震災からの復興・再生に貢献することを目指す。
3月25日	福島県	再生可能エネルギー分野の研究開発、地元企業への技術支援、人材育成などの取り組みを推進するほか、企業などとのネットワークを構築して情報発信・成果普及を効果的に実施することで、再生可能エネルギー分野の産業集積を促進し、震災からの復興の加速を目指す。

イベントの詳細と最新情報は、産総研のウェブサイト（イベント・講演会情報）に掲載しています
<http://www.aist.go.jp/>

EVENT Calendar

2014年4月

3月14日現在

期間	件名	開催地	問い合わせ先
4 April			
18日	日本を元気にする産業技術会議シンポジウム「福島から世界へ」	東京	03-6812-8673